

# 日本における在留外国人のヘルスリテラシーに関する文献レビュー

## Literature review on health literacy of foreign residents in Japan

横山詞果<sup>1</sup>, 李孟蓉<sup>2</sup>, ○辻村弘美<sup>3</sup>

Fumika Yokoyama, Moyo Ri, Hiromi Tsujimura

1 太成学院大学, 2 高崎健康福祉大学, 3 群馬大学

Taisei Gakuin University, Takasaki University of Health and Welfare, Gunma University

### 【背景と目的】

近年のグローバル化に伴い、日本に住む在留外国人数は増加している。COVID-19 パンデミックの影響により一時的に減少したものの、2023年には約340万人（出入国在留管理庁、2024）となり、過去最高を更新している。

今回の COVID-19 の国内流行において、健康関連情報が伝わりづらい日本在留外国人の保健医療の脆弱性が明るみになり、支援体制を構築することが必要である。

日本の在留外国人の中でも技能実習生は、在留資格別にみると2番目に多く増加の一途である（出入国在留管理庁、2024）。さらに、技能実習制度は、2027年までに育成就労制度にかわり、日本国内における労働力の貴重な存在となり、日本国内の健康増進・維持の観点からも、在留外国人の健康支援体制の拡充は必要不可欠である。

個人の保健行動や健康のアウトカムに影響を及ぼすものとして、ヘルスリテラシーがある。ヘルスリテラシーとは、健康や医療に関する情報を探し理解し、活用する力のことである。日本において外国人が、自分に適した保健行動や健康管理行動を取り入れて生活するためには、ヘルスリテラシー能力を向上させることが重要である。

本目的は、在留外国人のヘルスリテラシーに関連する内容を明らかにし、在留外国人の健康支援体制について検討することである。

### 【方法】

対象文献の収集法として、医中誌 web 版と Cinii を使用した。「外国人」または「外国人労働者 or 技能実習生」と「ヘルスリテラシー」キーワードとして原著論文を2024年7月に検索した。重複を除き上記で得られた文献12件のうち、住環境や背景が異なる移民を対象としたもの、災害プログラムの開発のもの、文献レビューは除外し、計9件を分析対象とした。分析方法は、それぞれの文献を精読し、ヘルスリテラシーに関連する内容を質的帰納的に分析した。

### 【結果】

#### 1. 対象文献の概要

研究対象者は、外国人留学生3件、外国人技能実習生1件、日本で出産・子育てをした外国人の母親1件、日本人の災害支援者1件、スペイン語圏ラテンアメリカ地域出身者1件で、日本在住経験があるインドネシア人ムスリム1件、アジア人1件であった。

疾患や状況としては、インフルエンザ2件、Covid-19 1件、メンタルヘルス1件、出産・育児1件、特に定めなものが4件であった。

調査内容は、ヘルスリテラシーを測定する尺度を用いている文献は1件のみであり、他は、医療機関への受診行動や Covid-19 やインフルエンザの流行状況やワクチン接種の情報収集、災害時の対処行動、食生活や運動などの保健行動や、育児の実践のヘルスリテラシーに関連するものであった。

#### 2. 健康に関する情報の収集手段

健康に関する情報の収集手段としては、スマートフォ

ンやパソコンを活用していることが多く、次いで TV 等のマスメディアが多かった。ロコミの入手先では、家族や親せきが多く、友人、出身国などのコミュニティでの情報交換が行われていた。

#### 3. 日本在留外国人のヘルスリテラシーに関連する内容

在留外国人が自身で保健行動や疾患への予防・対処行動を実践する際に影響したヘルスリテラシーに関連する内容について、質的帰納的に分析した結果、4つのカテゴリに分類された。

##### 1) 日本語の語学力

8文献において、日本語の語学力が大きく影響していることが述べられており、健康情報の収集、理解、判断、活用および受療行動のどのプロセスにも影響していた。医療通訳の活用もなされていたが、通訳を介することでの弊害も生じていた。

##### 2) 自国で身につけている価値観や文化

来日前の自国での医療や保健、健康に関する知識や行動、経験が個人によって異なり、それらが来日後のヘルスリテラシーに影響を与えていた。

また、疾患への罹患や健康行動が宗教的な教えに沿いそもそも健康に抗わないなど、宗教や自国の文化からの影響を受けていた。

##### 3) 日本社会への適応

相談できる日本人の友人が一定数いることと、日本の滞在期間が適切な保健行動と関連していた。また、食習慣や運動習慣など、自身の生活をできるだけ日本の環境の中で維持できるようにする方法の情報を求めている姿勢がみられていた。

##### 4) 日本の保健医療システムの理解

自国の保健医療のシステムと異なる日本のシステムがわからず、また、健康保険の加入や医療費の仕組みがわからず、情報の収集・理解や受診行動の阻害となっていた。

### 【考察】

ヘルスリテラシーに関する文献は、対象者、状況ともに多岐にわたっていた。また、ヘルスリテラシーの測定尺度を使用したものは少なく、各々の研究を比較・統合することが難しい状況であり、研究を重ねていくことが望まれる。

日本の在留外国人が健康な生活をおくるには、日本語能力の向上に加えて、日本社会への適応の促進を支援することが必要である。また、個人が身に付けてきた価値観や文化を尊重し、日本の保健医療システムの理解を促進させ、情報を活用できるように支援することが重要である。

### 【利益相反】

開示すべき利益相反はない。

本研究は科学研究費助成事業「ウイズコロナ時代のベトナム人技能実習生の健康状態とヘルスリテラシー」（課題番号 23K09832）の一部として実施した。